

景気ウォッチャー調査(東海地区:2015年9月)

～現状判断DIは2ヶ月連続低下、2ヶ月連続の50割れ～

- 10月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の9月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の状態に対する判断:各分野計)は前月差3.4ポイント低下の45.8と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、9月は同4.5ポイント低下の44.7と、2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、9月は同1.3ポイント低下の48.0と、2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った(注1)。

現状判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 7月	51.6 (+1.3)	51.6 (+0.6)	50.5 (+1.7)	50.8 (+0.4)	53.6 (+0.2)	53.4 (+1.1)
8月	49.2 (-2.4)	49.3 (-2.3)	49.2 (-1.3)	48.8 (-2.0)	49.3 (-4.3)	50.4 (-3.0)
9月	45.8 (-3.4)	47.5 (-1.8)	44.7 (-4.5)	47.0 (-1.8)	48.0 (-1.3)	48.6 (-1.8)

- 9月の先行き判断DIは、前月差2.3ポイント上昇の49.4と4ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。また、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは同2.1ポイント上昇の47.9と、4ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは同2.7ポイント上昇の52.4と、3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに上回った。

先行き判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 7月	51.1 (-1.6)	51.9 (-1.6)	50.5 (-0.7)	51.3 (-1.6)	52.3 (-3.4)	53.1 (-1.6)
8月	47.1 (-4.0)	48.2 (-3.7)	45.8 (-4.7)	47.4 (-3.9)	49.7 (-2.6)	49.9 (-3.2)
9月	49.4 (+2.3)	49.1 (+0.9)	47.9 (+2.1)	48.9 (+1.5)	52.4 (+2.7)	49.5 (-0.4)

- 現在の景気の水準自体に対する判断DI(各分野計)は、9月は前月差2.6ポイント低下の46.6と、2ヶ月連続で低下し、中立を示す50を2ヶ月連続で下回った。家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは同5.9ポイント低下の42.3と、3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を下回る状況が続いている。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは同3.8ポイント上昇の55.1と、2ヶ月ぶりに上昇した。

現状判断DI(水準)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 7月	50.6 (+1.7)	49.5 (+0.9)	48.1 (+1.8)	47.5 (+0.5)	55.3 (+1.2)	53.5 (+1.8)
8月	49.2 (-1.4)	48.4 (-1.1)	48.2 (+0.1)	47.0 (-0.5)	51.3 (-4.0)	51.2 (-2.3)
9月	46.6 (-2.6)	47.0 (-1.4)	42.3 (-5.9)	45.1 (-1.9)	55.1 (+3.8)	50.9 (-0.3)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

調査部 鈴木明彦 塚田裕昭 杉本宗之

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2 / 〒461-851 名古屋市東区葵1-19-30

TEL:03-6733-1070 / 052-307-1106

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「景気は、中国経済に係る動向の影響等がみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、プレミアム付商品券への期待等がみられるものの、中国経済の情勢や物価上昇への懸念等がみられる」とまとめ、4月の判断を基本的に維持している。
(8月のまとめ) 「景気は、中国経済に係る動向の影響等がみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、シルバーウィーク、プレミアム付商品券への期待等がみられる一方、中国経済の情勢や物価上昇への懸念等がみられる」
- 東海経済については、「景気は、横ばい圏で推移しており、弱い動きが続いている。先行きについては、中国経済の減速や世界的な株安に対する懸念はやや落ち着き、インバウンド消費、伊勢志摩サミットへの期待が続いているが、家計動向関連を中心に慎重な見方が続いている」とまとめられる。
(8月のまとめ) 「景気は、緩やかな回復基調が一服し、弱い動きがみられる。先行きについては、家計動向関連、企業動向・雇用関連ともに見方が一段と慎重になっている。プレミアム付商品券、インバウンド消費、伊勢志摩サミットへの期待が続いているが、中国経済の減速や株価下落への懸念が広がっている」
- 景気の現状判断DI、家計動向関連、企業動向・雇用関連いずれも2ヶ月連続で低下し、50を下回る状況が続いている。大型連休(シルバーウィーク)となる秋のレジャー需要の拡大やインバウンド消費拡大の効果も限定的で、東海経済は横ばい圏で推移している。また、中国経済の減速も影響した弱い動きが続いている。
- 前月急速に膨らんだ中国経済の減速や世界的な株安に対する懸念はやや落ち着き、景気の先行き判断DIは改善している。しかし、インバウンド消費、伊勢志摩サミットなどへの期待が続き、クリスマス商戦や年末商戦への期待が出ているものの、全体としては依然として慎重な見方が続いている。

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海=愛知、岐阜、三重、静岡

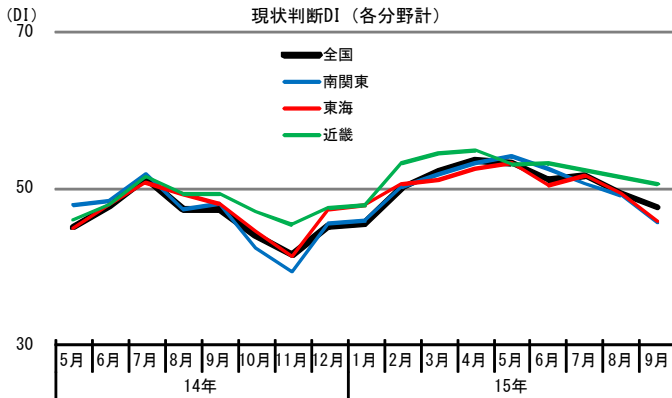
南関東=埼玉、千葉、東京、神奈川

近畿=滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

1. DIの動向

(1) 景気の現状判断（3ヶ月前との比較、方向性）

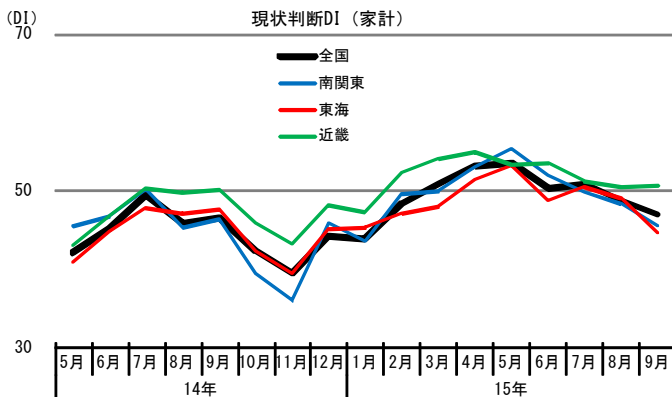
○ 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI（各分野計）は、前月差3.4ポイント低下の45.8と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。近畿に比べて低く、全国に比べてやや低い、南関東とほぼ同水準となっている。



■各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	45.1	47.8	44.9	45.9	
	6月	47.7	48.4	47.9	47.9	
	7月	51.3	51.7	50.8	51.4	
	8月	47.4	47.3	49.2	49.3	
	9月	47.4	48.0	48.0	49.4	
	10月	44.0	42.3	44.5	47.0	
	11月	41.5	39.3	41.2	45.4	
	12月	45.2	45.5	47.3	47.6	
	15年	1月	45.6	45.8	47.8	47.8
		2月	50.1	50.2	50.6	53.3
		3月	52.2	51.8	51.0	54.6
		4月	53.6	53.2	52.5	54.9
5月		53.3	54.2	53.2	53.1	
6月		51.0	52.6	50.3	53.3	
7月		51.6	50.5	51.6	52.4	
8月		49.3	49.1	49.2	51.4	
9月		47.5	45.5	45.8	50.5	

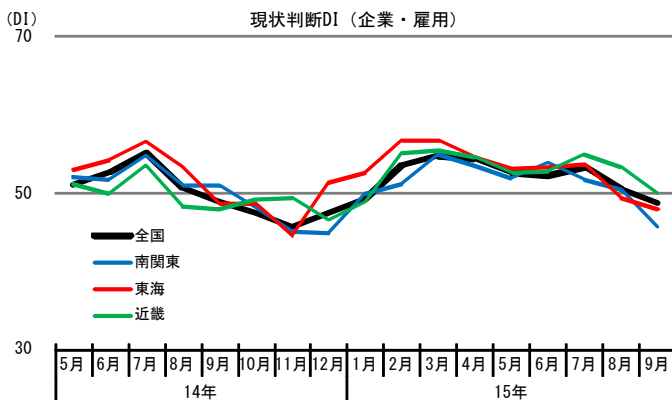
○ 家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、9月は前月差4.5ポイント低下の44.7と、2ヶ月連続で低下した。下げ幅が大きく、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。近畿、全国に比べて低い、南関東とほぼ同水準となっている。



■家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	42.1	45.5	40.8	43.1	
	6月	45.1	46.8	44.7	46.8	
	7月	49.4	50.1	47.9	50.3	
	8月	45.8	45.4	47.2	49.9	
	9月	46.7	46.4	47.7	50.2	
	10月	42.3	39.4	42.3	45.9	
	11月	39.5	36.1	39.5	43.2	
	12月	44.2	45.9	45.1	48.2	
	15年	1月	43.9	43.6	45.4	47.4
		2月	48.4	49.6	47.2	52.3
		3月	50.9	50.0	48.0	54.1
		4月	53.2	53.1	51.5	55.0
5月		53.6	55.4	53.2	53.4	
6月		50.4	51.9	48.8	53.6	
7月		50.8	49.9	50.5	51.2	
8月		48.8	48.4	49.2	50.4	
9月		47.0	45.5	44.7	50.8	

○ 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、9月は前月差1.3ポイント低下の48.0と、2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。近畿に比べてやや低い、南関東に比べて高く、全国とほぼ同水準となっている。

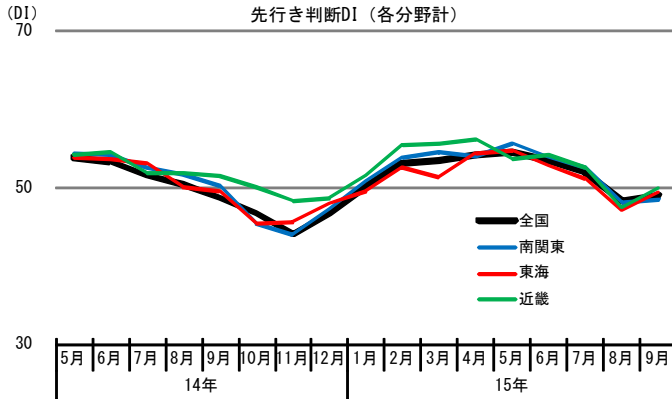


■企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	51.0	52.1	52.9	51.1	
	6月	52.7	51.7	54.2	50.0	
	7月	55.1	54.7	56.6	53.5	
	8月	50.6	51.0	53.3	48.3	
	9月	48.9	50.9	48.7	47.9	
	10月	47.3	48.0	48.7	49.2	
	11月	45.5	45.0	44.6	49.4	
	12月	47.4	44.9	51.3	46.5	
	15年	1月	49.1	50.0	52.6	48.8
		2月	53.5	51.2	56.7	55.2
		3月	54.7	55.0	56.7	55.5
		4月	54.4	53.5	54.6	54.7
5月		52.7	51.9	53.2	52.6	
6月		52.3	53.9	53.4	52.8	
7月		53.4	51.7	53.6	54.9	
8月		50.4	50.5	49.3	53.3	
9月		48.6	45.6	48.0	50.0	

(2) 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

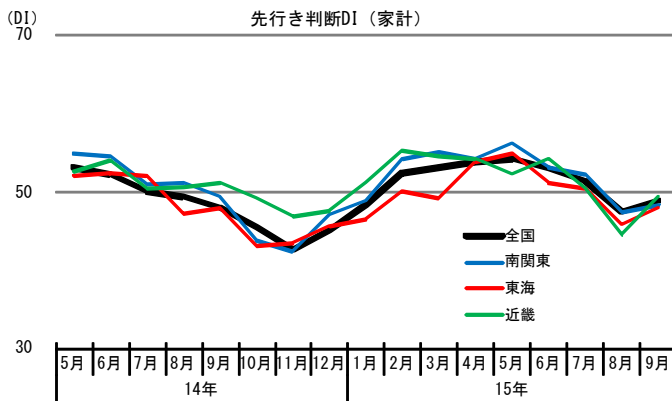
○ 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計）は、9月は前月差2.3ポイント上昇の49.4と4ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。南関東、近畿、全国とほぼ同水準となっている。



■各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	53.8	54.3	53.8	54.1	
	6月	53.3	54.2	53.6	54.5	
	7月	51.5	52.6	53.1	51.9	
	8月	50.4	51.8	50.1	51.9	
	9月	48.7	50.2	49.4	51.5	
	10月	46.6	45.5	45.5	50.0	
	11月	44.0	43.9	45.6	48.2	
	12月	46.7	47.3	48.0	48.6	
	15年	1月	50.0	50.8	49.6	51.6
		2月	53.2	53.8	52.6	55.5
		3月	53.4	54.6	51.3	55.5
		4月	54.2	54.0	54.3	56.1
5月		54.5	55.6	54.7	53.7	
6月		53.5	53.8	52.7	54.2	
7月		51.9	52.6	51.1	52.6	
8月		48.2	48.0	47.1	47.3	
9月		49.1	48.4	49.4	49.9	

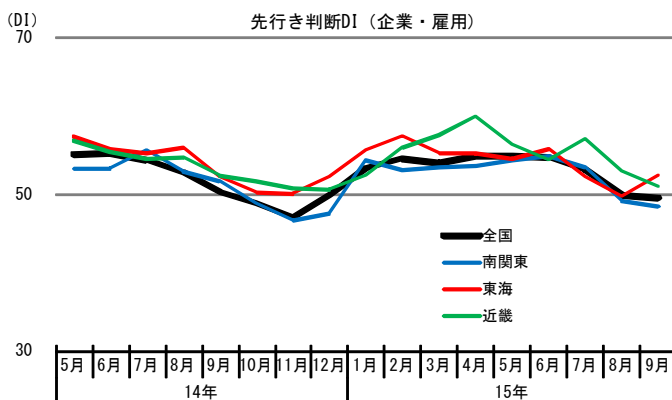
○ 家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、9月は前月差2.1ポイント上昇の47.9と、4ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。近畿に比べやや低い水準であるが、南関東や全国とほぼ同水準となっている。



■家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	53.1	54.9	52.0	52.6	
	6月	52.3	54.6	52.5	54.0	
	7月	50.0	50.9	52.1	50.4	
	8月	49.3	51.2	47.2	50.6	
	9月	48.0	49.4	48.0	51.1	
	10月	45.4	43.8	43.0	49.1	
	11月	42.5	42.3	43.5	46.8	
	12月	45.0	47.1	45.7	47.5	
	15年	1月	48.4	48.8	46.5	51.2
		2月	52.4	54.1	50.0	55.2
		3月	53.1	55.2	49.1	54.5
		4月	53.9	54.2	53.8	54.1
5月		54.3	56.3	54.8	52.3	
6月		52.9	53.2	51.2	54.1	
7月		51.3	52.2	50.5	50.4	
8月		47.4	47.4	45.8	44.5	
9月		48.9	48.3	47.9	49.4	

○ 企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、9月は前月差2.7ポイント上昇の52.4と、3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに上回った。近畿よりやや高く、南関東、全国より高い水準となっている。

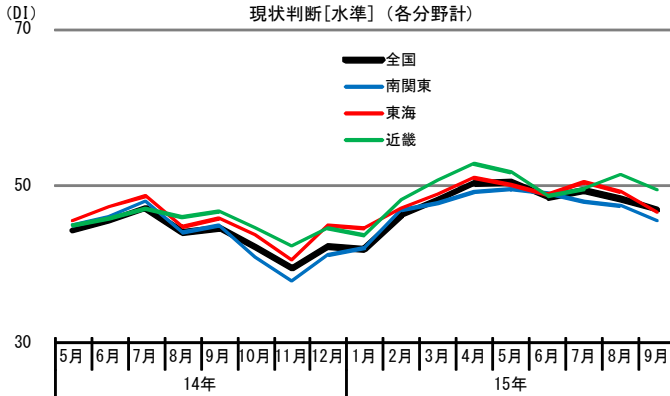


■企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	55.0	53.3	57.4	56.9	
	6月	55.3	53.3	55.8	55.4	
	7月	54.5	55.7	55.3	54.6	
	8月	52.8	52.9	56.0	54.7	
	9月	50.2	51.7	52.3	52.4	
	10月	48.9	48.8	50.3	51.7	
	11月	47.1	46.7	50.0	50.9	
	12月	49.9	47.5	52.3	50.6	
	15年	1月	53.4	54.4	55.6	52.4
		2月	54.6	53.2	57.4	56.0
		3月	54.1	53.5	55.3	57.6
		4月	55.0	53.7	55.3	59.9
5月		54.9	54.4	54.5	56.3	
6月		54.7	54.9	55.7	54.3	
7月		53.1	53.5	52.3	57.0	
8月		49.9	49.3	49.7	53.0	
9月		49.5	48.5	52.4	50.9	

（3）景気の現状判断（水準）

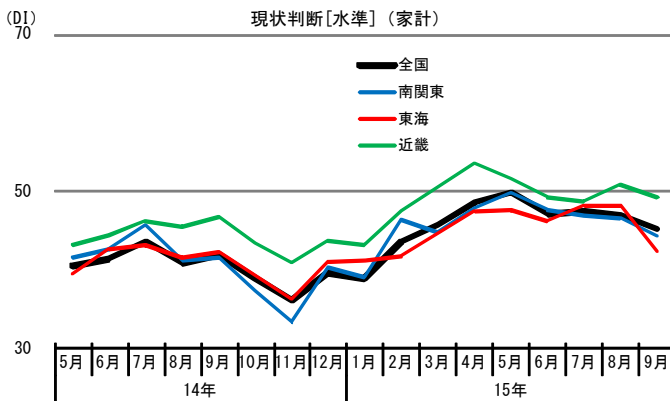
○ 現在の景気的水準自体に対する判断D I（各分野計）は、9月は前月差2.6ポイント低下の46.6と、2ヶ月連続で低下し、中立を示す50を2ヶ月連続で下回った。近畿に比べて低いが、南関東、全国とほぼ同水準となっている。



■各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	44.3	45.0	45.5	45.0	
	6月	45.5	46.1	47.3	45.8	
	7月	47.0	48.0	48.7	47.0	
	8月	44.0	44.0	44.8	46.0	
	9月	44.6	45.0	45.8	46.7	
	10月	42.1	40.8	43.7	44.6	
	11月	39.3	37.8	40.5	42.3	
	12月	42.3	41.3	45.0	44.7	
	15年	1月	41.9	42.0	44.6	43.7
		2月	46.2	46.9	47.2	48.2
		3月	48.2	47.9	49.0	50.8
		4月	50.3	49.3	51.0	52.8
5月		50.6	49.6	50.1	51.8	
6月		48.6	49.2	48.9	48.8	
7月		49.5	47.9	50.6	49.7	
8月		48.4	47.5	49.2	51.5	
9月		47.0	45.6	46.6	49.5	

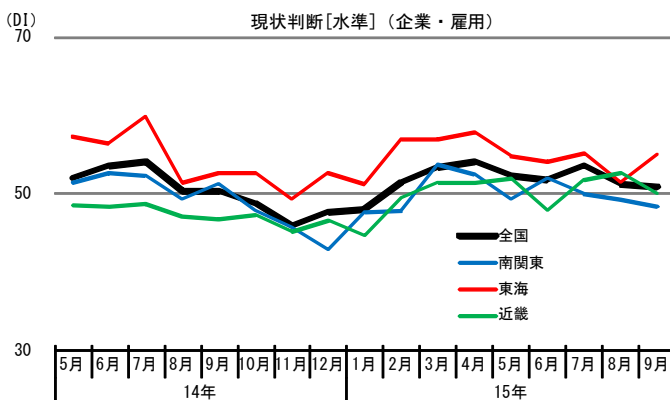
○ 家計動向関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断D Iは、9月は前月差5.9ポイント低下の42.3と3ヶ月ぶりに大幅に低下し、中立を示す50を大きく下回っている。近畿、全国に比べて低く、南関東に比べてやや低い水準となっている。



■家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	40.5	41.5	39.5	43.1	
	6月	41.4	42.6	42.6	44.4	
	7月	43.6	45.6	43.2	46.2	
	8月	40.9	41.2	41.5	45.5	
	9月	41.8	41.6	42.3	46.8	
	10月	38.9	37.2	39.2	43.3	
	11月	36.1	33.3	36.2	40.8	
	12月	39.6	40.4	41.0	43.7	
	15年	1月	39.0	39.1	41.2	43.2
		2月	43.6	46.4	41.8	47.6
		3月	45.6	44.7	44.7	50.4
		4月	48.5	47.8	47.5	53.6
5月		49.8	49.8	47.7	51.7	
6月		47.0	47.7	46.3	49.3	
7月		47.5	46.9	48.1	48.7	
8月		47.0	46.6	48.2	50.9	
9月		45.1	44.3	42.3	49.2	

○ 企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断D Iは、9月は前月差3.8ポイント上昇の55.1と、2ヶ月ぶりに大きく上昇し、中立を示す50を10ヶ月連続で上回っている。南関東、近畿、全国に比べ高い水準となっている。



■企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	5月	51.9	51.4	57.4	48.6	
	6月	53.6	52.6	56.5	48.3	
	7月	54.1	52.4	59.9	48.6	
	8月	50.3	49.3	51.3	47.1	
	9月	50.3	51.2	52.6	46.7	
	10月	48.8	47.8	52.6	47.2	
	11月	45.9	45.8	49.3	45.1	
	12月	47.7	42.9	52.6	46.5	
	15年	1月	47.9	47.6	51.3	44.6
		2月	51.5	47.8	57.1	49.4
		3月	53.3	53.8	57.0	51.5
		4月	54.0	52.5	57.9	51.5
5月		52.3	49.3	54.8	52.0	
6月		51.7	52.0	54.1	47.8	
7月		53.5	50.0	55.3	51.7	
8月		51.2	49.3	51.3	52.7	
9月		50.9	48.3	55.1	50.0	

2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(1) 景気の現状判断

- 9月の東海地区の景気の現状判断D I（45.8）は2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。部門別にみると、家計動向関連の現状判断D I（44.7）、企業動向・雇用関連の現状判断D I（48.0）ともに2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回っている。
- 現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。9月調査では、「(やや)良くなっている」が減少する一方で、「(やや)悪くなっている」が増加した。特に、「良くなっている」という回答は2012年8月調査以来のゼロとなった。

現状判断 (回答者数)	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	合計
5月調査	6	64	117	35	6	228
6月調査	5	48	121	39	8	221
7月調査	4	51	129	35	5	224
8月調査	4	45	123	46	7	225
9月調査	0	33	127	50	10	220

- 8月調査に続いて9月調査でも中国経済の減速や株価の下落が懸念材料となっているが、家計動向関連でのコメントはあまりない。

・株価の下落が客足に響いているように感じる。9月の大型連休の客足は、前年と比較して好調であった。(高級レストラン役員)

- 天候要因については、残暑や台風の影響をマイナス材料として挙げる回答が目立つ一方で、9月の大型連休（シルバーウィーク）が天候に恵まれたことをプラス材料として挙げる回答があった。

・今月上旬は、残暑や台風18号等の影響で来客数が少なく、来客数の減少で秋物商品の販売量が減っている。中旬以降も客の購買意欲には変化がみられない。(衣料品専門店経営者)

・9月の大型連休は天候にも恵まれ、客足は悪くなかった。ただ、客が集中し、連休明けからは動きが悪くなっている。(旅行代理店従業員)

- 8月調査で先行きのプラス材料として期待されていたシルバーウィークについてのコメントが多かった。旅行レジャーでのプラス効果を指摘するコメントがある一方で、シルバーウィークの前後の需要の落ち込みを指摘するコメントもあった。また、旅行レジャー以外へのプラス効果は乏しく、景気全体を押し上げる効果はなかったようだ。

・大型連休は、ゴールデンウィーク以上に旅行や帰省に出掛ける人が多かった。交通機関、ホテルや観光地では、例年の9月にはないにぎわいがあり、消費者には、レジャーに金を使う余裕があるよ

- うに感じる。(旅行代理店従業員)
- ・大型連休の分、今月は販売量の増加を期待していたが、前後の週が悪いので、販売量はトータルでは前年とほぼ同じ数字となっている。(商店街代表者)
 - ・食品には大型連休に伴う影響はほとんどない。不安定な天候に日々の売上が大きく左右されるが、結果的には前年並みという傾向が続いている。期初は前年を上回っていた客単価も、購入点数が減少し、ほぼ前年並みに落ち着いている。(スーパー営業企画)
- 8月調査で多かったプレミアム付き商品券についてのコメントは1件だけであり、効果は一巡しているようだ。
- ・プレミアム付商品券等、地域振興のための動きはあるが、あまり消費拡大につながっている感じはしない。商品券をきっかけに何かを買おうという様子は見られず、ふだんの生活の足しという使い方が多い。(乗用車販売店経営者)
- インバウンド消費は好調だが、衣料品をはじめ他の商品はあまりよくないという状況が続いているようだ。
- ・インバウンドや高額消費は変わらず好調であるが、中間層が消費の主体である衣料品や食料品の動きが鈍い状況である。(百貨店経営企画担当)
 - ・インバウンドで高額品や化粧品の動きは良いが、例年この時期に動くはずのファッション関連商品の動きが鈍い。不要不急の物や長くは使えない流行品等に対する購買が活性化していない。(百貨店販売担当)
- 価格の上昇については売り上げ増につながるプラス材料としてとらえるコメントと、節約志向を強めるマイナス材料としてとらえるコメントに分かれており、捉え方の違いが景気の現状判断（良くなっている・悪くなっている）の違いに反映されている。
- ・来客数は前年と比べてかなり好調である。客の様子も価格をあまり意識せずに買物をしているように感じる。(スーパー店長)
 - ・天候の悪化による食品価格への影響が非常に大きい。特に白菜やキャベツ等、葉物野菜の価格が、通常の3~5倍程度に上昇しており、客もあきらめて買い控える様子が見受けられる。(スーパー店員)
- 「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。回答合計数が月によってぶれるので単純な比較はできないが、9月調査では「(やや)良くなっている」という回答が無くなり、厳しさが増しているようだ。もっとも、「変わらない」という回答が最も多く、その中には悪くない状況が変わらないところもあれば、厳しいまま変わらないところもある。個々のコメントを見ると、明るい動きに触れるところと厳しい状況を示唆するところが混在している。

- ・問い合わせ件数も少々あり、成約につながるものもあるので、今月も悪くはない。販売台数にも動きがみられる。（乗用車販売店従業員）
- ・販売量がかなり減っている。来客数も前月に引き続き、増えていない。（乗用車販売店経営者）

現状判断	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答合計
3月調査	0	2	7	3	0	12
4月調査	1	1	5	3	1	11
5月調査	1	0	4	3	1	9
6月調査	0	1	4	6	0	11
7月調査	0	0	8	4	0	12
8月調査	0	1	5	3	0	9
9月調査	0	0	7	2	1	10

- 家計動向関連の状況をまとめると以下のコメントのような状況であり、個人消費の回復感は広がっていない。また、ここにきてなんとなくムードが沈滞している状況を示すコメントが出ていることに注意が必要だ。

- ・若年から中年層の客に話を聞くと、給料が上がっていないそうで、自分にあつた日用品や衣料品等をお買得な時を選んで購入している。各店での販売量に変動はないが、売上高は減少している。中国景気の減速が他の新興国や資源国にも影響し、日本からの輸出が伸びないため、労働者の手取りの給料は減少している。（スーパー経営者）
- ・夏場と変わり来客客の動きが鈍くなっている。前年との比較でも販売量は10%減少で推移している。商品別では、テレビや冷蔵庫といった大型家電の販売量が悪い。（家電量販店店員）
- ・旅行商品を含む消費の動きは、メリハリがはっきりしてきている。お盆や9月の大型連休が終わり、一気に節約ムードが広がっている。中国の景気の減速が、我が国の輸出型産業にもじわじわと影響している。（旅行代理店経営者）

- 企業動向関連でも、家計動向関連と同様に中国経済の減速や株価の下落を懸念するコメントが出ている。特に中国経済の減速は実際のビジネスに直結する問題となっている。8月調査の時と同様に、企業動向・雇用関連の現状判断DIの低下をもたらす要因になっていると考えられる。

- ・株価の乱高下が円相場にも影響しているが、現状では直接的な影響は出ていない。（電気機械器具製造業営業担当）
- ・中国経済の減速等が要因で、9月の客からの受注量は内示に対して未達成となる見込みである。（輸送用機械器具製造業総務経理担当）
- ・中国向けを中心に生産財輸出の落ち込みが続き、消費財の輸入量も減少が続いている。新聞では国内の日用雑貨の値上がりを報道しているが、運んでいる商品の運送単価は総じて下落傾向にあり、収入減となっている。（輸送業経営者）

- 設備投資については、前月に続いて一服感を示唆するコメントが出ていることに注意が必要だ。
 - ・スマートフォン関連の設備投資が、受注・売上共に落ちてきている。（一般機械器具製造業営業担当）
 - ・取引先の設備投資が一段落し、当社のオリジナル商品があまり動かなくなっている。（電気機械器具製造業経営者）

- 一方、原材料コストの低下による利益の改善をプラス材料として指摘するコメントがあった。
 - ・取引先である製造業者の多くは、原油や鉄鋼原料等の価格低下で原材料コストが軽減し利益が改善している。コスト増加の販売価格への転嫁が難しく悩んでいた状況からは、変化がみられる。（金融業法人営業担当）

（２）景気の先行き判断

- 9月の東海地区の景気の先行き判断D I（49.4）は4ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。家計動向関連の先行き判断D I（47.9）も4ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。また、企業動向・雇用関連の先行き判断D I（52.4）は3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を再び上回った。
- 先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。8月調査で、中国経済の減速や株価の下落を背景に先行きの見方が厳しくなり、「(やや)良くなる」という回答が減少し、「(やや)悪くなる」という回答が増加した。9月調査では、「(やや)良くなる」という回答は8月とほとんど変わらないが、「(やや)悪くなる」という回答が減少し、「変わらない」に戻っているようだ。8月調査で一気に高まった先行き不安はやや落ち着いていると推測できるが、7月調査のレベルまでは戻っておらず、家計動向関連を中心に慎重な見方が続いている。

現状判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	合計
5月調査	7	67	121	28	5	228
6月調査	3	57	127	29	5	221
7月調査	2	48	138	30	6	224
8月調査	1	41	121	55	7	225
9月調査	2	40	134	39	5	220

- 中国経済や株価の動向を懸念材料として挙げるコメントはあるが、8月調査に比べると減っている。また、コメントの内容も8月調査に比べると落ち着いた内容になっている。
 - ・中国の経済情勢の不透明感と、原料費価格の高騰によるメーカーの値上げ要請等はあるが、短期的には大きな消費動向への影響はない。(スーパー営業企画)
 - ・株価の下落により景気が悪化すると思ったが、今のところ目に見える影響は感じられない。しかし、良くなる材料も見当たらない。(乗用車販売店営業担当)
- 9月の大型連休も終わり、先行きのプラス材料が見つげにくい中、クリスマス商戦や年末年始に向けた需要拡大に期待するコメントが多い。もっともこれは季節要因であり、景気を上向きにさせる材料とは考えにくい。
 - ・クリスマス等、年末商戦も控えているため、現在よりも多少は景気も回復すると思われる。(衣料品専門店[紳士服洋品]売場担当)
 - ・年末に向けて購買意欲が高まるように感じる。宝飾品に関しては、クリスマスプレゼント等に関する動きがある。(その他専門店[貴金属]営業担当)
- インバウンド消費に対する期待が続いているが、勢いが鈍ってくることを懸念する声もある。

伊勢志摩サミットに対する期待は続いている。

- ・インバウンドの増加が止まらない。都市部のホテル客の3割が外国人ということで、週末、連休を中心にホテルの予約がとれない状況が続いている。10～11月の連休も宿泊料が高騰しつつも満室状態で、それでも更に問い合わせが続いている。（旅行代理店従業員）
- ・免税制度の改正から10月で一回りで、売上高の底上げという観点では寄与が小さくなる。株安等の急激な環境の変動があれば、消費に冷や水を浴びせかねない。（百貨店経営企画担当）
- ・伊勢志摩サミットの知名度アップを、地域経済でもどう実感できるように活用するかが決め手になる。（一般小売店[土産]経営者）

- プレミアム付商品券に対する期待は残っているようだが、プラス効果を期待するコメントは少ない。

- ・プレミアム付商品券がどの自治体でも販売されているが、使用期限が11月から来年1月となっている。購入者が、何かの支払で商品券を使っている間は、消費が大きく控えられることはない。（会計事務所社会保険労務士）

- 乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、4月調査で夏のボーナス増加への期待もあり改善した後、5月調査以降は期待がやや剥落した状況が続いている。9月調査でも大きな変化はないが、「(やや)悪くなる」という見方が少し減っている。8月調査で膨らんだ中国経済の減速懸念や株価の下落に対する懸念が薄らいでいるようだ。一方、新型車投入に対する期待が続いている。また、フォルクス・ワーゲン問題の影響については限定的とのコメントがある一方で、販売動向への影響を懸念する声もある。

先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	回答合計
3月調査	0	1	5	6	1	13
4月調査	0	6	5	2	0	13
5月調査	0	3	8	1	0	12
6月調査	0	3	8	1	0	12
7月調査	0	2	8	2	0	12
8月調査	0	2	7	3	1	13
9月調査	0	3	9	1	0	13

- ・株価の下落により景気が悪化すると思ったが、今のところ目にみえる影響は感じられない。しかし、良くなる材料も見当たらない。（乗用車販売店営業担当）
- ・12月に待望のフルモデルチェンジを控えている車種があり、予約も含めて、増加が期待できる。（乗用車販売店従業員）
- ・特に好材料もなく客の購買意欲も低いので、しばらくは横ばいと感じる。ドイツの自動車メーカーでディーゼル車が問題となっているが、国産車はガソリン車、ハイブリッド車もあるので、特に心配はしていない。客との話でも、国内ではディーゼルエンジンの乗用車が少ないので、あまり身近に感じ

- ないようである。例年これからの時期は、販売量、工場への在庫量共に減るので、少ない客をいかに逃さないかが重要になる。（乗用車販売店従業員）
- ・ドイツの自動車メーカーを筆頭にディーゼル車の問題が出てきている。ドイツの他のメーカーにも飛び火している模様で、今後の販売動向に影響が出てくる。（乗用車販売店販売担当）
- 企業動向関連では、中国経済と株価下落を懸念するコメントが続いているが、8月調査に比べるとコメント数は大きく減少している。
- ・中国の株価動向等も落ち着いてきており、景気を左右するような要因が見当たらない。（不動産業用地仕入）
 - ・中国経済、米国の利上げ見通し、ドイツの自動車メーカーの問題等、海外情勢の不透明感が増大している。（化学工業人事担当）
- 設備投資の底堅さが先行きのプラス材料として挙げられている
- ・大型の設備投資が進行中である。省エネ、省人化や生産性向上の効果を期待でき、有効な投資としたい。（食料品製造業経営企画担当）
 - ・年末にかけて、客先の業界での設備投資が期待できるため、11～12月は業況が良くなってくる。（電気機械器具製造業経営者）
- 原材料価格の下落をプラス材料として挙げるコメントがある一方で、今後景気が悪くなるシグナルとして心配するコメントもある。
- ・当面は、原材料価格の下降によるコスト軽減効果が持続すると見込まれる。（金融業法人営業担当）
 - ・指標となるスクラップの単価が、8月中旬以降ずっと下がっている。前年7月に比べると単価的には4割以上下がっているため、将来の景気は悪くなると見通している。（輸送用機械器具製造業総務経理担当）

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方向性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

評価	良くなっている 良くなる (良い)	やや良くなっている やや良くなる (やや良い)	変わらない 変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなっている やや悪くなる (やや悪い)	悪くなっている 悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。